

沖縄21世紀に300



第5回

沖縄らしい風景づくり

～次世代に守り継ぎ、時間とともにその価値が高まる地域づくり～

地域が主体の風景づくり

沖縄らしい風景とは、地域ごとの個性的な自然や歴史・文化、時代の移りかわり、人々の暮らしを背景とした多様性を持つものです。地域の特性を生かした風景づくりのルールをつくり守っていくことで、魅力的な景観を次世代に継承することができます。

各市町村独自の条例で、景観に配慮した開発や建築物を誘導することができます

地域の守りたい風景とは？まちの将来像は？地域のルールはどのようなものでしょう。



座間味村の青い海



竹富町の赤瓦集落



風景学習



モノレールのある風景

県が取り組む風景づくり

道路、港湾、建築物などの県の公共事業は、良質な公共空間を創出するため、目標像・景観形成方針に沿って、有識者からの助言を取り入れながら実施しています(景観評価システム)。

地域の方々や市町村、景観整備機構と協力し、小学生向けの学習活動やセミナーの実施など地域の風景づくり支援に取り組んでいます(風景学習、人材育成)。

ポータルサイト「^{沖縄らしい風景}風景結々」



QRコードから
チェック！

今昔の写真や県の取り組みなど、風景の情報を掲載！

シンポジウム10月開催

沖縄のこれからをどう繋いでいくか、一緒に考えませんか？詳細は「風景結々」掲載予定。

風景は長い時間をかけ、つくられます。広い世代が風景づくりについて知り、学び、考え、作り、次世代へと伝えていくことが大切です。住む人が誇る美しいまちなみ、沖縄を訪れる方々が魅力的だと感じる「沖縄らしい風景づくり」を沖縄県全体で進めていきましょう。

問い合わせ

都市計画・モノレール課 電話:098-866-2408 FAX: 098-866-5938

広告



9月18日はしまくとぅばの日。

広げよう！しまくとぅば 県民運動

